

ボランティア・市民活動のこれからを展望します 「ボランティア全国フォーラム2019」を開催！

2019年12月14日（土）、15日（日）の2日間 東京都内で開催

- このお知らせは、「ボランティア全国フォーラム2019」の現時点での概要をご案内しています。ご紹介している登壇者や分科会内容は、今後変更になることがあります。
- 参加申込開始は9月下旬以降を予定しています。申込方法は9月下旬以降、「広がれボランティアの輪」連絡会議ホームページでご案内いたします。

(掲載情報は2019年6月現在)

1. 「ボランティア全国フォーラム2019」全体テーマ

誰ひとり取り残さないためのボランティア・市民活動の挑戦

～持続可能な私づくり、社会づくり～

2. 趣 旨

1993年、高齢化の進展や家族形態の変化、生活の質や心の豊かさの重視などを背景に、誰もがボランティア活動に参加していく社会づくりをめざして、中央社会福祉審議会（当時）が国に条件整備等の意見具申を行い国の指針が出されるなど、ボランティア活動の推進が社会的課題となりました。

翌1994年、民間のネットワークとして、すべての人々が「いつでも、どこでも、誰でも、楽しく」ボランティア活動に参加できる環境・気運づくりを目的に、全国的なボランティア・市民活動推進団体、学校・社会教育・青少年団体、協同組合、労働団体、マスコミ関係団体などが参加し、「広がれボランティアの輪」連絡会議（以下「連絡会議」）が創設されました。

創設翌年の1995年には、阪神・淡路大震災が発生しました。協働による支援活動の広がりには「ボランティア元年」と言われ、1998年の特定非営利活動促進法（NPO法）制定につながりました。また2001年、国連において日本の提案により世界で取り組まれた「ボランティア国際年」を通じ、ボランティア活動の裾野が大きく広がりました。

これらのボランティア活動をめぐる変化のなかで、連絡会議は、参加団体それぞれの理念や活動を尊重しながら、市民一人ひとりがボランティア活動に参加できる環境づくりや広報啓発活動、そして時流をふまえた提言の発信を、連携・協力して進めてきました。

現在、少子高齢化、生活困窮や社会的孤立、生活スタイルの変化や在留外国人の増加などによる地域の多様化、そして地球規模での環境問題への対応など、国内外で多くの課題が生じています。このようななか、連絡会議は2019年に創設25年を迎えます。そこで、連絡会議創設からこれまでの四半世紀のボランティア活動の歩みを振りかえるとともに、持続可能な社会づくりに向けたこれからのボランティア・市民活動を展望するため、「ボランティア全国フォーラム2019」を開催します。

3. 主 催

「広がりボランティアの輪」連絡会議 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

4. 後援・協賛（依頼予定）

文部科学省、一般社団法人 日本経済団体連合会

日本生活協同組合連合会、教職員共済生活協同組合、全国労働者共済生活協同組合連合会

一般社団法人 日本新聞協会

5. 日 程

2019年12月14日（土）13時開会 ～ 15日（日）12時終了

6. 会 場

12月14日（土） 全社協・灘尾ホール（東京都千代田区 新霞が関ビル）

12月15日（日） 全社協・灘尾ホール、全社協会議室、及び東京都内の会場

7. 参加費

5,000円（交流会費は別途）※学生参加費、1日のみ参加の参加費は調整中です

8. プログラム

日程	時間	内容
12月14日 （土）	13:00～16:45	開会、あいさつ （1）記念講演 （2）パネルディスカッション
	17:30～19:30	（3）交流会
12月15日 （日）	9:00～12:00	（4）分科会

第1日 12月14日（土）

（1）記念講演

講師：神野直彦さん

（日本社会事業大学学長／東京大学名誉教授（財政学・地方財政論））

- ・我が国の社会課題、経済情勢や今後の動向をふまえ、今後のボランティア・市民活動などについて講演いただきます。

（近年の著書）

- ・人間回復の経済学（岩波新書・2002年）
- ・「分かち合い」の経済学（岩波新書・2010年）
- ・「人間国家」への改革：参加保障型の福祉社会をつくる（NHK出版・2015年）
- ・経済学は悲しみを分かち合うために：私の原点（岩波書店・2018年）

(2) パネルディスカッション

- ・記念講演の提起をふまえ、4人のパネリストから、各パネリストの属する立場と活動の観点をふまえ、今後の我が国のボランティア・市民活動についての視座をいただきます。

<パネリスト>

- ・記念講演の提起をふまえ、次の4つの観点から、今後の我が国のボランティア・市民活動についての視座をいただきます。

① 協同（協働）の観点

二村睦子さん（日本生活協同組合連合会 執行役員・組織推進本部長）

② 企業の社会貢献、働く人々の観点

長沢恵美子さん（一般社団法人 日本経済団体連合会 教育・CSR本部統括主幹）

③ NPO、市民活動推進組織等の推進者の観点

永井美佳さん（社会福祉法人 大阪ボランティア協会 事務局長）

④ 地域の実践者の観点

鈴木訪子さん（社会福祉法人 荒川区社会福祉協議会 ボランティアコーディネーター）

<コメンテーター>

神野直彦さん（日本社会事業大学学長／東京大学名誉教授）

<コーディネーター>

原田正樹さん（「広がれボランティアの輪」連絡会議副会長／日本福祉大学副学長）

(3) 交流会 ※ 詳細調整中

第2日 12月15日（日）

(4) 分科会

分科会	分科会テーマ・概要
1	■人生100年時代のボランティア ～SDGsと私～ 働く世代が社会参加活動にどのように関わっているかについて、「実践している企業の取り組み」「活動をコーディネートするNPOや社協の取り組み」などをふまえ、参加しやすい環境づくりや工夫を討議します。
2	■協同（協働）のネットワークでつくるボランティア・市民活動 生活協同組合では、居場所づくりや地域食堂、助け合い活動や助成金の実施による活動団体の応援など、地域で多様な取り組みを広げています。これらの実践を通じて、地域でのネットワークづくりの実際を学びます。

分科会	分科会テーマ・概要
3	<p>■多文化共生を考える</p> <p>「広がれボランティアの輪」連絡会議・国際PTが取りまとめた「災害時における在留外国人支援の視点」をはじめ、日本における外国人の現状や課題について、地域での実践を通じて学びます。</p>
4	<p>■子ども ※テーマ調整中</p> <p>子どもをめぐる地域の取り組み実践（子育て支援、社会的養育など）、及び地域で関係者ネットワークを組みながら課題の解決を進める取り組みなどから、今後の子どもへの支援を考えます。</p>
5	<p>■過疎と都市を支えるボランティア</p> <p>人口減少・高齢化が進む過疎地や中山間地、また都市部においてもニュータウンと呼ばれた地域での高齢化が深刻な課題です。移住者・交流者、学生、NPO、企業、地域住民の活動実践から学びます。</p>
6	<p>■どうしてですか？メンバーの固定化、高齢化 ～グループの継続を「人育て」の視点で考える～</p> <p>比較的長期間活動を継続しているボランティアグループ・団体を対象に、活動の悩みを共有し、必要な変化を考えることで少しでもヒントが出され、今後の活動に元気を持ち帰れることのできるワークショップ行います。</p>
7	<p>■SDGs ～ボランティアが挑戦できることは～</p> <p>「持続可能な私づくり、社会づくり」を進めるため、ボランティアが挑戦できることをワークショップ形式で考えます。とくに地域で長く活動をしている方々に、SDGsの考え方や地域での展開を考えていただく機会とします。</p>
8	<p>■若い世代のボランティア活動</p> <p>企業の若手社員、大学ボランティアセンター等による実践など、若い世代が進めるボランティア活動の実践から学びます。また、ICT（情報通信技術）を通じた活動などの紹介も検討します。</p>
9	<p>■居場所（サロン活動）づくりとボランティア活動</p> <p>地域で多様な世代や人々が集う場として、サロンや居場所が広がっています。参加する人すべてがボランティアとなり得る場づくりの取り組みから、その価値と課題、連携の可能性を考えます。</p>

※第2日（12月15日）は、全体会は設けず、分科会の終了をもって解散となります。

参加申込開始は9月下旬以降を予定しています。申込方法は9月下旬以降、「広がれボランティアの輪」連絡会議ホームページでご案内いたします。